

# 総務建設産業常任委員会視察研修報告

## 研修テーマ

- ① 大分県宇佐市日足地区の「農地・水・環境保全向上対策事業」の取り組み状況視察
- ② 筑後川の総合開発促進の一環である「大山ダム」視察

### ① 日足自治区の「農地・水・環境保全向上対策」活動状況

協定の対象となる資源	農用地	田 46.1ha
	農業用施設	開水路28km、パイプライン0.47km、ため池3箇所、農道22km
協定期間	平成19年から平成23年 5年間	
交付金額	10,142,000円(5年間)	
構成員一覧	農業者	日足営農組合30名、個人7名
	非農業者	日足自治会、日足老人クラブ、日足婦人会、日足子供会 宇佐土地改良区、宇佐市消防団14分団
活動内容	基礎活動	資源の適切な保全管理 遊休地等の発生状況把握、施設の点検計画策定、施設周辺の草刈り、水路の泥上げ農道の砂利補充など
	農地・水向上活動	施設の長寿化につながる保全管理 施設の機能診断、共同作業計画の策定農地法面等の初期補修、開水路・パイプライン・ため池・農道の破損施設の改修実施
	農村環境向上活動	講師による伝統農法・農業体験実施 総合学習の題材として小学校や地域住民と苗づくりから稲刈りまでの一貫した農業体験の実施 また、講師を招いて、千歯こぎや唐箕などを利用した伝統農法の説明会や体験などを実施

### ② 筑後川の総合開発促進の一環である「大山ダム」視察

- 大山ダムの目的
- ①洪水調整  
100年に1回発生する規模の洪水を被害を防ぐため
  - ②既得取水の安定化・河川環境の保全  
良好な河川環境を維持し、歴史的に利用されてきた取水の安定
  - ③新規利水  
福岡県南広域水道企業団、福岡地区水道企業団が取水可能に(大山ダムの水が大木町へ送られるんだ!)

#### 大山ダムの諸元 形式:重力式コンクリートダム

堤体積/58万m<sup>3</sup> 水没戸数/41戸  
 堤高/94m 総事業費/約1,400億円  
 堤頂長/370m 予定工期/平成24年度  
 集水面積/33.6km<sup>2</sup> (視察の時は湛水試験中でした)  
 湛水面積/0.6km<sup>2</sup>



大分県宇佐市役所にて日足地区の取り組み状況説明会状況



大山ダム視察、ダムの内部にて

# 文教厚生常任委員会視察研修委員会報告

## 研修テーマ

### 小中学校の給食と学力向上について

ここでは、学校給食会の設立経緯から沿革、実施されている各種事業の説明を受け、各委員より様々な質問、意見が出された。その中には、納入されている食材の残留農薬や衛生管理・輸入食材などの安全性から始まり、食育推進事業への質問、県産品ならびに町産品の使用状況、給食会運営にかかる経営状況など多岐にわたる質疑がなされた。



学校給食会で説明を受けている様子

大木町でも学校給食に使用される食材を納入している、筑紫野市にある公益財団法人福岡県学校給食会(福岡県学校給食総合センター)を訪ねた。

県産品ならびに町産品の学校給食における利用状況には、安定的に出荷が可能な、エノキやしめじ、エリンギなどのキノコ類が大木町産として県給食会で特に利用されているようです。その他にも、あまおうやイチジクなどもジャムやゼリー、ムースなどの加工食品として利用されている。

委員会としても町産品の県内給食利用の利用拡充とJAを通じた新町産品の拡大をお願いした。



給食コンクールで入選した作品

次の視察研修は、テレビでも紹介された大分県豊後高田市の学力向上への取り組み「学びの21世紀塾」

豊後高田市では、地域の課題として全国平均を上回るペースでの少子高齢化の進捗により、市全体の学級の小規模化並びに学校そのものの小規模化が懸念されている。これに伴って学校施設の耐震、老朽化による改修も喫緊の課題となっており、このようなか、市総合教育計画審議会より、小・中学校連携強化の必要性、小・中一貫の取組の必要性、地域における教育実践の必要性などが答申されています。このことにより、市では教育委員会とともに「豊後高田市教育ビジョン」を策定され、さまざまな取り組みをなされている中、今に生きる寺子屋の教えとして地域の人々が、地域の子供たちのために勉強を教える、「学びの21世紀塾」を始めた。

この取り組みは、子供たちに確かな学力の定着や身体づくりの機会を提供することを目的とし、地域の人たちのボランティアを中心に運営されている。このプログラムには、幼・小・中の英会話、国語、算数、数学、英語、そろばん、合唱等があり、パソコン実習講座、放課後補充学習、中学3年生を対象とした夏季・冬季特別講座、幼稚園への出前授業などが実施されている。これに加え、体験活動として4泊5日の宿泊体験スクール、ものづくりを経験する週末子ども育成活動、スポーツや文化の活動推進など特色あるメニューで充実されている。また、自宅でも学習できると地元ケーブルテレビを活用した「テレビ寺子屋講座」も好評を博しているようだ。

これらの講師には、教員の皆さん、地域の方々が率先して参画されている。この事業に取り組み始められてから県教育委員会との意見の相違、地域の方々からの反発、是非事業を推進して欲しいなど賛否両論があり当時のご苦労が思い浮かびます。しかし、全国に誇れる教育のまちづくりを目指す教育の意志と、さまざまな分析を基にした調査の結果から、今まで力強く事業を推進されてこられたのだとそう思います。

事業の開始から10数年、今では地域に根差した活動はもとより、子供たちの学力も県内トップの実績が出ており不登校の生徒も全市1,800人中2人という驚異的な成果も挙げられ、保護者や地域の方々より深く感謝されているとのことでした。

大木町でも、これらの事例を参考に、小中一貫の取組みや学童保育所の充実・夏期一時預かり事業などで活用できないか検討していきます。